許可事項	許可内容	許可期間	確認方法
① 転居	全学年にわたり、学期の途中で転居し、通学に支障がない場合	必要な間	公的処理による確認
② 転居予定	自宅の新築又は転居が確定しており、転居先の学校へ入学（転学）を希望する場合	転居日の属する学年初めから転居日までの間	転居日を証する書類 (下記のいずれか) ・建築確認申請書の写し ・建築請負契約書の写し ・家屋売買契約書の写し ・貸借契約書の写し ・その他転居を証する書類 等
	自宅の建替等で仮移転した場合	再転居するまでの間	
③ 一時移転	災害による仮移転	必要な間	・公的機関の罹災証明書 ・仮移転を証する書類 等
	公共事業による一時立ち退き	再転居するまでの間	
④ 身体的理由	身体虚弱又は通院治療を要する場合等で通院通学に便利な学校へ通学する場合	必要な間	① 医師の診断書 ② 通院通学の経路図 等
	教育的配慮が必要な場合	卒業までの間	
⑤ 精神的不安定	家庭環境等が急変し、児童生徒に精神的に著しい影響があり、不安定と認められた場合	必要な間	学校長の意見書 又は医師の診断書 等
⑥ 特別支援学級入級	指定校に希望する種別の特別支援学級が無く、指定校以外の特別支援学級のある学校に通学する場合	必要な間	面接による確認
⑦ 院内学級入級	院内学級に入級する場合	必要な間	院内学級就学願
⑧ 昼間留守家庭	保護者が共働き等により、帰宅後監督者がいない場合	小学校卒業又は義務教育学校の前期課程修了までの必要な間 ただし、許可校区の中学校進学又は義務教育学校の後期課程は可能	① 保護者の勤務証明書又は、営業（自営）を証する書類 ② 児童預かり証明書 等
⑨ 住民票の異動届ができない	家庭の事情で居住地に住民登録ができない場合	住民票の異動届出ができるまでの間	自治会長等による居住を証する書類
⑩ 保護者の入院等	保護者の入院等で、一時的に親族等へ預けられた場合	保護者と生活ができるまでの間	① 医師の診断書 ② 児童預かり証明書 等
⑪ 隣接校選択制利用者の中学校入学	(新中学校1年生のみ) 小学校で隣接校選択制を利用している児童が在籍小学校区の指定中学校へ入学を希望する場合※注1	必要な間	公的処理による確認
⑫ 学区外就学の延長	(新中学校1年生のみ) 小学校で学区外就学を利用している児童が在籍小学校区の指定中学校へ入学を希望する場合※注1	必要な間	公的処理による確認
⑬ 兄弟等の在籍	兄弟等が指定校以外の学校に在籍、もしくは前年度まで在籍していた場合	必要な間	公的処理による確認
⑭ 距離	(新1年生と転入者・市内間転居者) 自宅から指定校までの距離が一定以上あり、かつ、自宅から隣接校までの距離が自宅から指定校までの距離に比べて著しく短くなる場合※注2	必要な間	自宅から指定校まで、自宅から希望する隣接校まで、それぞれの距離が分かる地図
⑮ 外国籍児童生徒・帰国児童生徒	外国籍児童生徒や外国生活が長い児童生徒で、配慮が必要と認められる場合	必要な間	面接による確認
⑯ いじめ・不登校等	不登校等、生徒指導上、教育的配慮が必要な場合	必要な間	① 学校長の意見書 ② 面接による確認 等
⑰ 上記以外の理由で、特に教育的配慮が必要な場合		必要な間	教育長が指定する書類・面接による確認

※注1 指定中学校が2校に分かれる小学校の場合は、自宅から近い中学校を許可する

※注2 [小学校]

自宅から指定校までの距離が、1.5キロメートル以上であり、かつ、自宅から隣接校までの距離が自宅から指定校までの距離に比べ1/2以下になる場合

[中学校]

自宅から指定校までの距離が、2.5キロメートル以上であり、かつ、自宅から隣接校までの距離が自宅から指定校までの距離に比べ1/2以下になる場合

- 備考
- 1 必要書類は、表に記載しているもの以外でも必要があると認めるときは、請求することができる。
  - 2 許可した後、虚偽の申請が判明した場合は、許可を取り消すものとする。
  - 3 許可申請期間中に、許可理由が不該当になった場合、許可を解除するものとする。
  - 4 市外からの転入者又は市立学校以外の在籍者の場合、校長意見書は不要とする。

許可事項 ⑩ 地域的事情

許可内容 住居表示などによって他の学校区に編入されたか、地域のつながりが従前と変わらない等で教育長が認めた地域

許可期間 卒業まで

許可地域

1. 新栄町の指定校は日岡小学校・原川中学校であるが、南萩原自治区（昭和60年2月に線引きした範囲）は、東大分小学校・城東中学校を学区外許可とする。
2. 北下郡11組の一部の指定校は下郡小学校・滝尾中学校であるが、津留小学校・城東中学校を学区外許可とする。
3. 高城新町6番～14番の指定校は桃園小学校・原川中学校であるが、日岡小学校を学区外許可とする。
4. 乙津港町1丁目の一部及び皆春の一部の指定校は、鶴崎小学校・鶴崎中学校であるが、桃園小学校・原川中学校を学区外許可とする。
5. 迫の一部の指定校は川添小学校・東陽中学校であるが、鶴崎小学校・鶴崎中学校を学区外許可とする。
6. 上志村の一部の指定校は大在西小学校・大在中学校であるが、鶴崎小学校・鶴崎中学校を学区外許可とする。
7. 森の一部・葛木団地3班の指定校は別保小学校・東陽中学校であるが、明治小学校を学区外許可とする。なお、本許可事項で明治小学校を卒業する児童については、大東中学校を学区外許可とする。
8. 岡（大字高瀬）の指定校は田尻小学校・植田南中学校であるが、植田中学校を学区外許可とする。

必要書類 不要

許可事項 ⑱ 小規模特認校入学（転学）

1. 趣旨及び目的

緑豊かな自然環境に恵まれる小規模校で、心身のすこやかな成長を図り体力づくりを目指すとともに、自然に触れる中で豊かな人間性を培い、明るく伸び伸びとした教育を希望する保護者・児童生徒に、一定の条件を付し、特別に入学（転学）を認めるものである。

2. 基本的な考え方

児童生徒の学校指定は、教育長が定めた通学区域により学校を指定するが、特認校制度は、保護者が上記の趣旨及び目的に従い、小規模校の有する特色ある環境の中で児童生徒に教育を受けさせたいという場合に限定されるものである。

したがって、保護者が入学（転学）を希望する場合は、別に定めた入学（転学）条件について十分理解したうえで、教育長の指定する学校に限り、入学（転学）を認めるものである。

3. 指定校及び定員

学 校 名	所 在 地	定 員
神 崎 小 学 校	大分市大字神崎 1798 番地	各学年とも既在籍者を含め 1 学級以内
上 戸 次 小 学 校	大分市大字端登 1792 番地	〃
こ う ぎ き 小 学 校	大分市大字本神崎 945 番地の 2	〃
竹 中 中 学 校	大分市大字竹中 3621 番地	〃

4. 入学（転学）の条件等

① 学校長の意見書

ア. 在籍学校長の意見書

特認校への転学が適当か、趣旨に沿ったものであるか等、在籍学校長の意見書が必要。

ただし、入学前の児童、市外からの転入者又は市立学校以外の在籍者で、特認校への転学を希望する者については、不要とする。

イ. 特認学校長の意見書

保護者及び児童生徒は、希望する特認校において学校長の面接を受け、児童生徒の健康、通学時の安全、通学上の条件、保護者の協力等、入学（転学）希望が特認校制度の趣旨等に沿ったものであるか、学校長の意見書が必要。

② 通学上の条件

- ア. 自宅から学校までの片道の通学時間は、約1時間以内を目安とする。
- イ. 原則として、自力通学できる児童生徒に限る。

③ 保護者の協力

登下校時における安全の確保、その他学校の教育活動等に対する協力が必要。

④ 転入学期間

概ね1年間以上の通年通学に限る。

⑤ 入学（転学）の取り消し

入学（転学）を許可した後、虚偽の申請又は、特認校制度の趣旨、目的に合わない事由が生じ支障があると認められるときは、入学（転学）を取り消すことがある。

5. 保護者の申請

- ① 保護者及び児童生徒は、在籍校及び特認校で校長の面接を受ける。特認校での面接の際には、保護者は通学経路図を提出する。
なお、入学前の児童については、特認校での面接のみとする。
- ② 保護者は、在籍校及び特認校の了解を得た上で、教育長へ特認校就学許可を申請する。

6. その他

特認校区の中学校進学を可能とする。

許可事項 ⑳ 隣接校選択制

1. 目的

児童生徒、保護者が、学校の特色や教育環境、通学の安全性等を考慮し、学校を選択できる機会を確保する。

2. 対象者

大分市に住所を有し、大分市立小学校又は中学校の第1学年に入学する者（義務教育学校の第1学年に入学する者又は義務教育学校第7学年に進級する者を含む。）。

3. 選択希望の申請

通学区域以外の隣接校を選択し就学を希望する保護者は、教育長が別に定める期日迄に申請しなければならない。

4. 選択希望可能校

選択し就学を希望できる学校の範囲は、教育長が別に定める。

5. 受入定員

入学者の受入定員は、毎年度各学校の施設の状況等を踏まえ決定する。

6. 抽選

選択希望者が、受入定員を超えた学校については、公開抽選により入学者を決定する。

選外者については補欠登録を行い、当選者が辞退した場合には、順次繰り上げて選択希望校への入学を許可する。

7. 学校情報の公開

学校案内、学校公開、学校HP等による。

8. その他

この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が定める。